

中央教育審議会 初等中等教育分科会
国語ワーキンググループ

～デジタル実践の現在～

2026年4月10日

自己紹介



上田祥子（うえだ さちこ）
Social Learning Architect
（社会的学びの設計士）
明蓬館高等学校・

アットマーク国際高等学校理事長特別顧問
一般社団法人 HASSADAI SOCIAL 理事

共創・共贈の学びの社会実装
DivideからDialogueへ

- ・ 東京学芸大学中学校教員養成課程国語科卒業
- ・ 一般企業勤務後結婚、出産を経て専業主婦に

- ・ 2011年 埼玉県に奉職（所沢北高等学校）
- ・ 2016年 JICA教師海外研修でタイに派遣
- ・ 2017年 SDGs にまつわる実践がメディア掲載
- ・ 2020年 川越初雁高等学校
一般社団法人HASSYADAI SOCIAL理事就任
- ・ 2021年 進路指導主事・総探検討委員長
- ・ 2022年 日本DX大賞官民連携部門 大賞受賞
埼玉県教育委員会表彰（優秀な教職員表彰）受賞
- ・ 2023年 埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課指導主事
教育課程（探究）→キャリア教育
国語・書道・図書館
- ・ 2025年 現職

本日のAgenda

- ・ デジタル・AI活用の現在地
- ・ 実践例（アナログ→デジタル→AI）
- ・ 現場からの示唆

本日のAgenda

- ・ デジタル・AI活用の現在地
- ・ 実践例（アナログ→デジタル→AI）
- ・ 現場からの示唆

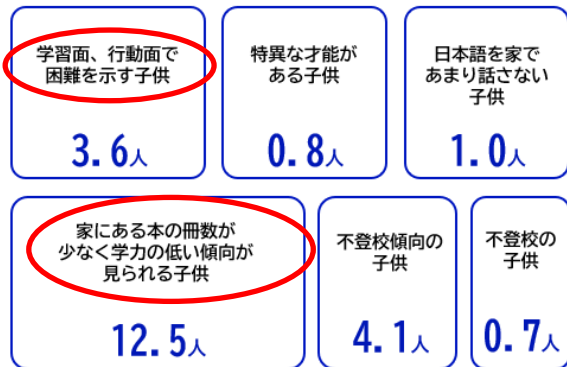
デジタル・AI活用の現在地

子供たちを取り巻く背景とデジタル化の強み①

多様なデジタルツールの活用により、生まれた環境や生まれ持った特性等に関わらず、全ての子供たちに自分にあった学びを実現

顕在化する子供たちの多様性

小学校35人学級における子供の多様性

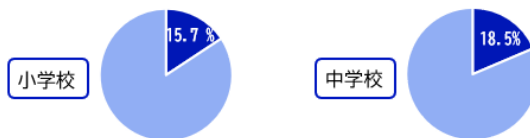


(出典) 内閣府「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」をベースに更新された中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）参考資料」（令和6年12月25日開催）

自分らしい学びの実現にはまだ課題

自分にあった授業になっていないと思う

「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」という質問に対して、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と回答した児童生徒の割合（対象：小6・中3）



授業の内容が難しすぎると思う

授業の内容が簡単すぎると思う

上記の各質問に「とても当てはまる」「少し当てはまる」と回答した児童生徒の割合（対象：小4～中3）



(出典) 上：文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」より作成
下：文部科学省「義務教育に関する意識に係る調査」

デジタルの活用により
可能・容易になる
多様な学びの例

個別最適なサービス提供

- ✓ 子供の興味関心や解答状況に応じて提供する問題やその難易度等を調節
- ✓ 動画により苦手な内容を反復して学習

多様なインターフェース

- ✓ タイピングに加え、手書きや音声での入力が可能
- ✓ 多言語対応や白黒反転、拡大等が容易

柔軟な組合せが可能

- ✓ 苦手な分野は動画教材を参照しながらじっくり学習
- ✓ ドリル教材で誤った箇所は教科書に遷移し、関連ページに立ち戻って復習

デジタル・AI活用の現在地

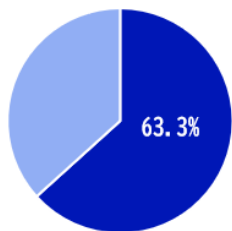
子供たちを取り巻く背景とデジタル化の強み②

デジタルの活用により自分にあった学びを支援するに当たっては、習熟度に応じた問題の提供などアルゴリズムによる最適化のみに頼るのではなく、データや生成AI等の活用により、学習者が主体的に学ぶ中で最適な学びとなるよう自ら学習を調整することを支援することも重要

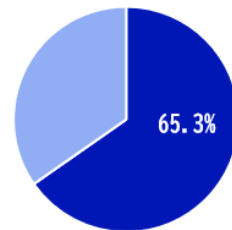
自分で学校の勉強をする予定を立てる自信が無い

自分の学習の進み具合を評価する自信が無い

「今後、あなたの学校が再び休校した場合、以下のことを行う自信はどれほどありますか」という質問に対し「あまり自信が無い」「全然自信が無い」と回答した日本の生徒の割合（アンケート対象：15歳）



自律的な学習に
課題



（出典）文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2022年調査（PISA2022）のポイント」より作成

デジタルの活用により
可能・容易になる
自律的な学びの例

主体的な学習を支援

- ✓ 自らの学習データを踏まえ、計画や振り返りを作成
- ✓ 生成AIとの壁打ちを通じて、足りない視点を見つけ、考えを深める（※）

※生成AIの活用については、年齢制限等に留意が必要

プロセス・ログを容易に蓄積・保存

- ✓ 自らの進捗や得意・苦手分野についてログをもとに参照
- ✓ 自動的に記録された成果物や学習過程をもとにしたパフォーマンス評価やポートフォリオ評価等の多様な評価

デジタル・AI活用の現在地



学校現場で起きている分断

分断① 活用格差

使う人 vs 使わない人
得意な人 vs 苦手な人

分断② 目的のずれ

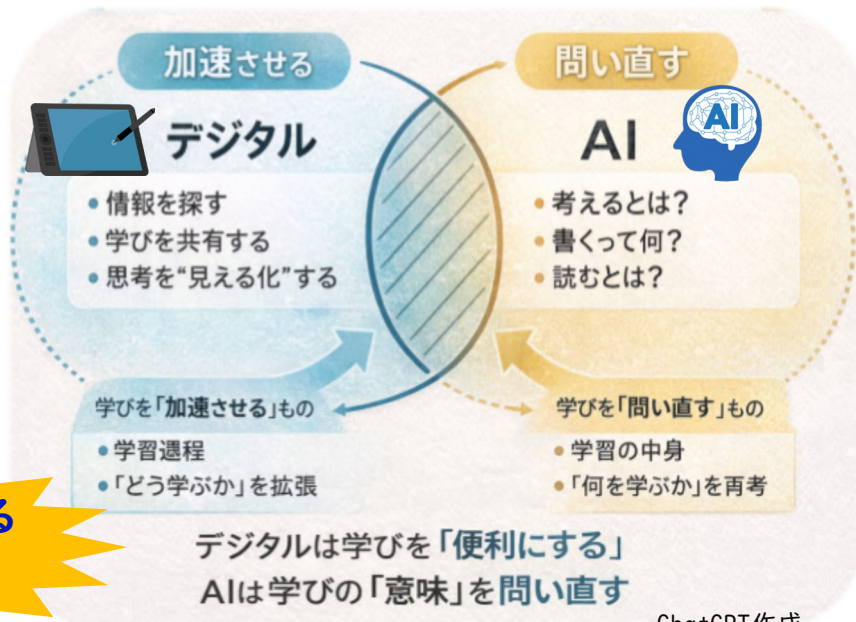
効率化・時短 vs 思考・対話の深化

分断③ AIの認識差

使うべき vs 危険

AIの登場による
分断の深化

デジタル活用とAI活用の違い (私見)



子供たちの未来に資するデジタル、そしてAIの活用とは？

本日のAgenda

- ・ デジタル・AI活用の現在地
- ・ 実践例（アナログ→デジタル→AI）
- ・ 現場からの示唆

実践例

【高次の資質能力的に言語化】
意味は、具体と抽象の階層を往還する中で言葉によって構築され、語彙によって分節・精緻化される構造をもつ。このとき、往還と語彙は相互に制約しつつ、意味理解を発展させる。

◆私が大切にしている「言葉の力」

語彙力
～思考の素材～



具体と抽象の往還力
～思考のエンジン～

関数

言葉の数 = 世界を捉える解像度を定める

- ・具体 = 例示、体感、共感
- ・抽象 = 概念化、整理、構造化

※関数…語彙力と具体⇄抽象の往還力がそろってはじめて、意味や理解が成立する関係であるという意。どちらか一方では不十分であり、両者を往還的に育てることが「言葉の力」の中核となる。



◆「言葉の力」育成のための実践 = 言語化と対話と祝福のプラクティス

①ワードハント
～言葉との偶然の出会いを祝福する～



②pitchトーク
～言語化と対話のアクティビティ～



実践例

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実装
- ・多様性の包摂
- ・実現可能性の確保
- 多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

◆「言葉の力」育成のための実践 = 言語化と対話と祝福のプラクティス

①ワードハント ～言葉との偶然の出会いを祝福する～



読む・書く 小・中・(高)

辞書を「調べる道具」から「言葉と出会う場」へと転換し、偶然の出会いを起点に、自分の関心や問いを芽吹かせる言語活動。

分からなくてもいい、調べなくてもいい。ただ出会い、ひっかかり、言葉を拾う。その小さな出会いの蓄積が、やがて「自分は何に反応する人間なのか」という問いを生み、思考と対話の起点となる。

⇒「言葉との偶然の出会いを、深い学びの起点にする実践」

②pitchトーク ～言語化と対話のアクティビティ～



話す・聞く (小)・中・高

90秒の語り (pitch) と対話 (トーク) の往還によって、思考を言葉にし、他者との関係の中で深めていく実践型の言語活動。

短く語るために深く考え、語った言葉を他者との対話で編み直す。その往還の中で、「自分は何を考え、何を大切にしているのか」が立ち上がり、自分らしさを創り紡ぐ力が育まれる。

→「言語化と対話によって自己を編みなおし、包摂的に社会と接続していく実践」

実践例

①ワードハント ～言葉との偶然の出会いを祝福する～



◆ワードハント【入力（出会い）の設計】

理念（WHY）

- ・辞書（等）
＝調べる→出会うツールへ
- ・偶然の出会い
＝セレンディピティの祝福
- ・なんとなく気になる
＝探究心のめばえ

方法（HOW）

- ①辞書（等）を開く
- ②言葉に出会う
- ③付箋に言葉と日付を書いて該当ページに貼る
- ④出会った言葉を通しての対話と祝福

◆プロセスノート【処理（意味化）の設計】

理念（WHY）

- ・出会った言葉の可視化と蓄積
- ・プロセスからの気づきの言語化
- ・プロセスの見取りと評価

方法（HOW）

- ①付箋をノートに移して可視化
- ②お気に入りの言葉を選ぶ
- ③なぜ惹かれたかを言語化
- ④他者との共有・対話

効果（VALUE）

○認知面

- ・語彙力の自然な拡張
- ・概念理解の深化
- ・具体と抽象の往還力

○メタ認知と内省

- ・自分の関心・価値観への気づき
- ・思考プロセスの可視化

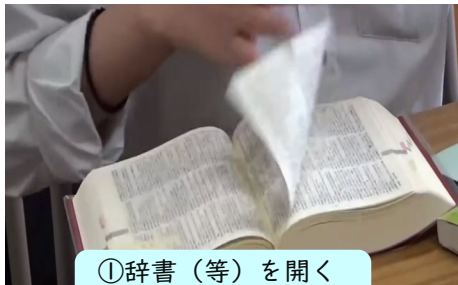
○非認知能力

- ・主体性
- ・自己効力感／肯定感
- ・対話力
→思考・内省・主体性の総合的成長

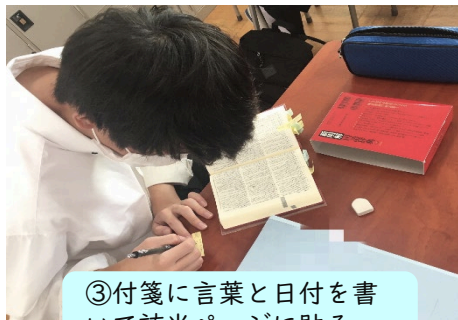
言葉との偶然の出会いを、主体的な学びへいざなう仕組み

実践例 (アナログ→デジタル→AI)

◆ワードハントとは【入力（出会い）の設計】



- ①辞書（等）を開く
- ②言葉に出会う



- ③付箋に言葉と日付を書いて該当ページに貼る

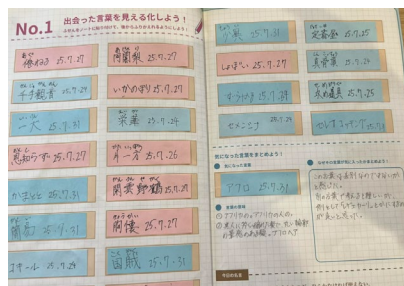


出会った言葉を通しての対話と祝福

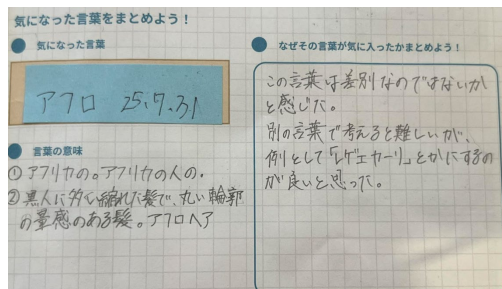
◆プロセスノートとは【処理（意味化）の設計】



出会った言葉の蓄積



ノートに移して可視化（出会った言葉のアルバム）

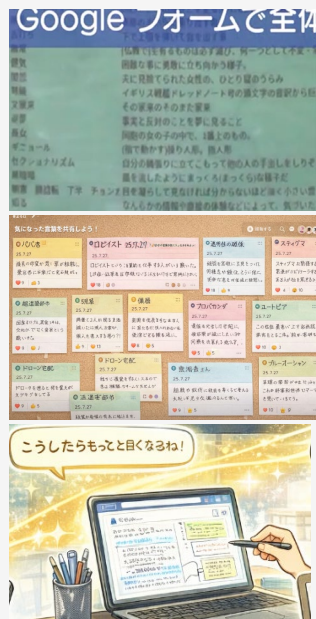


お気に入りの言葉を選び、なぜ惹かれたかを言語化→対話へ

実践例（アナログ→デジタル→AI）

デジタル

- ・出会った言葉と意味をフォームで提出
- ⇒個人の偶然の出会いが蓄積され、クラス全体の「素敵な言葉一覧」が生まれる
- ・ノートの振り返り部分をPadlet等で共有し対話する
- ⇒言葉の意味が他者との対話の中で再構築され、言葉への興味関心が深まる
- ・ノートをスクショして提出
- ⇒思考のプロセスが可視化され、プロセス評価の質が向上する



AI

- ・語源・文脈拡張
- 出会った言葉をAIに入力して問う（例：語源、歴史、他分野での使われ方）
- ⇒一語から世界が広がる体験。偶然の出会いが、構造的な理解へと深まる。
- ・AIによる「らしさ」分析
- 蓄積した言葉群をAIが分析（関心・価値観の傾向を可視化）
- ⇒自己理解のメタ認知化・キャリア形成
- ・オリジナル辞書の生成
- 出会った言葉をAIに再提示させ、意味や用例を整理する
- ⇒出会った言葉が蓄積され、「自分だけの言葉辞典」が形成される。「偶然の出会い」が「語彙」として定着する。

デジタル化によって、「個人の出会い」は「共有され、対話され、評価される学び」へと変わる

AIは、言葉との偶然の出会いを、拡張し、可視化し、再構築することで、「自分らしさを創り紡ぐ学び」を加速させる。

実践例

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実装
- ・多様性の包摂
- ・実現可能性の確保
- 多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

◆「言葉の力」育成のための実践 = 言語化と対話と祝福のプラクティス

①ワードハント ～言葉との偶然の出会いを祝福する～



読む・書く 小・中・(高)

辞書を「調べる道具」から「言葉と出会う場」へと転換し、偶然の出会いを起点に、自分の関心や問いを芽吹かせる言語活動。

分からなくてもいい、調べなくてもいい。ただ出会い、ひっかかり、言葉を拾う。その小さな出会いの蓄積が、やがて「自分は何に反応する人間なのか」という問いを生み、思考と対話の起点となる。

⇒「言葉との偶然の出会いを、深い学びの起点にする実践」

②pitchトーク ～言語化と対話のアクティビティ～



話す・聞く (小)・中・高

90秒の語り (pitch) と対話 (トーク) の往還によって、思考を言葉にし、他者との関係の中で深めていく実践型の言語活動。

短く語るために深く考え、語った言葉を他者との対話で編み直す。その往還の中で、「自分は何を考え、何を大切にしているのか」が立ち上がり、自分らしさを創り紡ぐ力が育まれる。

→「言語化と対話によって自己を編みなおし、包摂的に社会と接続していく実践」

実践例

②pitchトーク ～言語化と対話のアクティビティ～



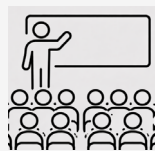
◆pitchトークの設計

理念 (WHY)

- ・言葉は「内面」から「他者」へ向かうことで意味を持つ
- ・「話す力」は技術ではなく場数と関係性（対話）の中で育つ
- ・共感を土壌とした対話による思考の深化

方法 (HOW)

- ①テーマに基づき90秒でピッチを構成する
- ②具体（体験）と抽象（意味）を往還し、パワーワード・プレゼントを意識して語る
- ③少人数でピッチを共有する
- ④共感+問いによる対話（トーク）を行う
- ⑤対話を踏まえ、再構成してファイナルピッチ



効果 (VALUE)

- 言語化力
 - ・話す経験と表現力の向上
 - ・**具体と抽象の往還力**
 - ・話そうとすることによる**語彙力**拡張
- 対話による内省等
 - ・自分の関心・価値観への気づき
 - ・他者理解と共感力の向上
- 社会性の向上
 - ・意見の違いの調整等
 - ・合意形成力

内なる言葉を、関係を生む対話へと転換する仕組み

各校での実践例

埼玉県教育委員会

働くを探究しよう!

小中高生
保護者
等対象

お仕事図鑑 pitch トーク

働く大人100人の想いに触れて、
未来の自分を見つけるチャンス!

社会で活躍する大人たちが、自分の仕事や生き方について全力でプレゼン（pitch）するイベントです。「自分はどんな大人になろうかな?」という問いについて、考えるきっかけ・新しい視点・発見が得られるはず!
また、大人が熟慮を込めて自分の想いを語る姿を見て、言葉の力に触れてみませんか?

日時 11月9日(土) 1部:10:00~12:00
2部:13:00~15:00

会場 ソニックシティ4F 市民ホール
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5

特別ゲスト TBS CCR推進室 TBSアナウンサー
豊田綾乃さん、蓮見孝之さん

「語る」を職業とされているか二人に講師を務めます!

詳細・申込みはこちら



…… **こんな人におススメ** ……

- ✓ 多様なキャリア（生き方・働き方）について知りたい
- ✓ イキイキ働く大人の話を直接聞きたい
- ✓ 自分のことを「語る」を得意にしたい

※当日の参加も可能ですが、定員を超過する場合は個人申し込みが可能な場合があります。要領の中心を参照してください。

【担当】 高校教育指導課産業教育キャリア教育担当 上田・大場
問い合わせ ☎ 048-830-6769
✉ a6760-16@pref.saitama.lg.jp

都立南多摩中等教育学校

進路SPECIAL QUEST

社会課題×学問 pitch トーク

Quest 学びのモチベーションに火をつける!



明蓬館高等学校（博多SNEC）

マイアロ中間
報告会



ピッチトーク開催!



都立桜修館中等教育学校



普通科

看護科

特別進学コース

進学探究コース

未来創造コース

看護師養成コース

山陰
初挑戦!

教科学習の高度化
▶ 校内予備校



英検
強化

▶ フィリピン
短期語学研修



興味と探究心の進化

▶ DXハイスクール
デジタルデザインによる
探究学習



データサイエンスによる探究学習

▶ DXハイスクール
スポーツ部活とデータサイエンス



日本唯一の全校的取り組み!

▶ pitchトーク

言語活動を
学校教育の中心に据える

部活動による人間教育

専攻科

キャリア教育の拠点

海外研修の
機会創出を検討中



視座と創造力

実践例（アナログ→デジタル→AI）

デジタル

- ・ 全員同時ピッチ空間（メタバース含む）空間・時間の制約を超えた同時的な発表交流

⇒ 全員が語る言語活動の実現
／ 多様な他者と出会う包摂的な学び

- ・ スライド1枚ピッチ共有
情報の圧縮・一覧化・即時共有

⇒ 他者の視点との比較による学びの深化

- ・ 録画・蓄積・共有
語りの記録・再生・校外での共有

⇒ 振り返りの高度化／学びの履歴の蓄積／学校知の資産



（例）Book Pitch 90
読書体験を90秒の動画で語り、全国の学校とつながり共有する言語活動



AI

- ・ AIによる改善への違和感の可視化
AIの提案と自分の表現との差異の顕在化
⇒ 最適解と自己表現の分離認識／「私はこれを選ばない」という主体的判断の形成

- ・ AIによる多様視点提示
異なる立場・前提からの見方の生成（例：「別の立場なら？」）
⇒ 視点の拡張／多角的思考の促進

- ・ グループpitchトークの対話の記録・分析
対話内容の構造化・傾向の可視化（発話・問い・応答）
⇒ 対話の質の自覚化／思考と対話のプロセスの言語化

デジタル化は、語る活動を「その場限り」から、
記録され、共有され、振り返られる学びへと拡張する。

AIは、言語活動を「表現する場」から
「思考を再生成・再構築する場」へと転換する。

本日のAgenda

- ・ デジタル・AI活用の現在地
- ・ 実践例（アナログ→デジタル→AI）
- ・ 現場からの示唆

デジタル・AI活用の現在地



学校現場で起きている分断

分断① 活用格差

使う人 vs 使わない人
得意な人 vs 苦手な人

分断② 目的のずれ

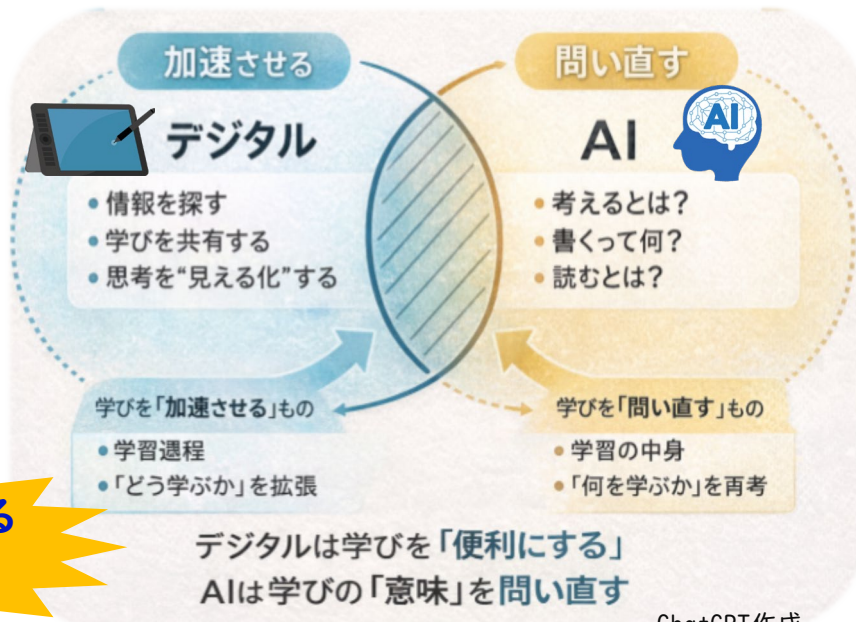
効率化・時短 vs 思考・対話の深化

分断③ AIの認識差

使うべき vs 危険

AIの登場による
分断の深化

デジタル活用とAI活用の違い (私見)



子供たちの未来に資するデジタル、そしてAIの活用とは？

現場からの示唆

—教科の本質に立ち返ったデジタル・AI活用へ—

デジタル化が進むからこそ改めて
「何のために言葉を学ぶのか」の目線を合わせたい

示唆1

目標の再設定

現状

- ・国語：国語で的確に理解し効果的に表現する
- ・地歴公民：平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者

国語科に「社会と関わる言葉の力」
という上位目標が内包されると良い

示唆2

教科特性の明確化

現状

小説（羅生門）を学ぶ（具体・単元化しがち）

小説（羅生門）で何を学ぶか
（抽象・教科の本質）

デジタル

学習過程を可視化し、共有（加速）

AI

言語活動を相対化・再構成（問い直し）

手段ではなく「本質的な学びを支える位置」に

教科の目的が明確になると、よりデジタル・AIは「学びを深める力」になる

第3節 地理歴史科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

第3節 公民科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

第3節 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。